

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分
 【発行日】平成30年3月8日(2018.3.8)

【公表番号】特表2016-518953(P2016-518953A)
 【公表日】平成28年6月30日(2016.6.30)
 【年通号数】公開・登録公報2016-039
 【出願番号】特願2016-515727(P2016-515727)
 【国際特許分類】

B 2 6 B 19/38 (2006.01)

【F I】

B 2 6 B 19/38 C

【手続補正書】

【提出日】平成30年1月25日(2018.1.25)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

ベース構造及びヘッド構造を含むシェービング装置のようなパーソナルケア装置であって、

前記ヘッド構造は、第 1 の結合要素と、少なくとも 1 つのトリートメントヘッドを保持するように構成された少なくともヘッド支持構造とを含む一方、前記ベース構造は、第 2 の結合要素を含み、これら結合要素は、前記ヘッド構造を前記ベース構造に結合するために、互いに取り外し可能に結合することができ、

中心軸線の周りの第 1 の回転方向に、結合した結合要素を互いに対して回転させることによって、第 1 及び第 2 の結合要素の少なくとも一方の第 1 の傾斜面が、第 1 及び第 2 の結合要素の他方の第 1 の協働面と協働し、それにより、前記中心軸線と平行に延びる軸線方向に第 1 及び第 2 の結合要素を互いに離れる方向に駆動させ、

前記中心軸線の周りの第 1 の回転方向とは反対の第 2 の回転方向に、前記結合した結合要素を互いに対して回転させることによって、第 1 及び第 2 の結合要素の少なくとも一方の第 2 の傾斜面が、第 1 及び第 2 の結合要素の他方の第 2 の協働面と協働し、それにより、前記軸線方向に第 1 及び第 2 の結合要素を互いに離れる方向に駆動させ、

第 1 及び第 2 の傾斜面は、それぞれ、前記中心軸線に対して正接方向に延びる接線方向との鈍角を含み、

第 1 及び第 2 の傾斜面は、前記接線方向に対して反対方向に傾斜しており、

第 1 及び第 2 の傾斜面は、それぞれ、前記中心軸線に対して径方向に延びる半径方向との更なる鈍角を含む、

パーソナルケア装置。

【請求項 2】

第 1 及び第 2 の傾斜面と協働する第 1 及び第 2 の結合要素の他方の第 1 及び第 2 の協働面は、傾斜している、

請求項 1 に記載のパーソナルケア装置。

【請求項 3】

第 1 及び第 2 の傾斜面と第 1 及び第 2 の協働面とが、対応する傾きを有する、

請求項 2 に記載のパーソナルケア装置。

【請求項 4】

第 1 及び第 2 の傾斜面は、前記中心軸線に対して基準半径方向に延びる基準面に対して正接方向に延びる長手方向の直線状の面である、

請求項 1, 2 又は 3 に記載のパーソナルケア装置。

【請求項 5】

前記ヘッド構造は、前記ベース構造に結合されたときに、前記結合要素によって単独で支持される、

請求項 1 乃至 4 のいずれか一項に記載のパーソナルケア装置。

【請求項 6】

第 1 の結合要素及び第 2 の結合要素は、前記軸線方向とは反対の結合方向に第 1 及び第 2 の結合要素を互いに向き合う方向に駆動することによって、非結合状態から互いに結合した結合状態に達し、及び前記軸線方向に第 1 及び第 2 の結合要素を互いに離れる方向に駆動することによって、前記結合状態から前記非結合状態に達するように構成される、

請求項 1 に記載のパーソナルケア装置。

【請求項 7】

第 1 及び第 2 の結合要素の一方は、第 1 及び第 2 の結合要素の他方の少なくとも 1 つの相補的な凹部と協働するような少なくとも 1 つの凸部を含み、これら結合要素は、前記凸部が前記凹部に配置される場合にのみ、互いに結合することができる、

請求項 6 に記載のパーソナルケア装置。

【請求項 8】

第 1 及び第 2 結合要素の一方は、全て互いに異なる多数の凸部を含むのに対して、第 1 及び第 2 の結合要素の他方は、前記凸部に相補的な多数の凹部を含む、

請求項 7 に記載のパーソナルケア装置。

【請求項 9】

第 1 及び第 2 の傾斜面の位置及び傾きは、第 1 の結合要素と第 2 の結合要素とが、前記中心軸線の周りの 90°よりも小さい角度に亘って第 1 又は第 2 の回転方向のいずれかで、前記結合した結合要素を互いに対して回転させることにより、前記結合状態から前記非結合状態に達するように選択される、

請求項 6 に記載のパーソナルケア装置。

【請求項 10】

第 1 及び第 2 の結合要素の一方は、前記中心軸線に対して垂直方向に延びる溝と協働するための、前記中心軸線に対して垂直方向に延びるばね要素を含み、前記溝は、前記結合要素を互いに結合したときに、前記結合要素を取り外し可能に保持するために第 1 及び第 2 の結合要素の他方に設けられる、

請求項 6 に記載のパーソナルケア装置。

【請求項 11】

請求項 1 乃至 10 のいずれか一項に記載のシェーピング装置のようなパーソナルケア装置で使用するためのヘッド構造であって、

該ヘッド構造は、結合要素と、少なくとも 1 つのトリートメントヘッドを保持するように構成された少なくともヘッド支持構造体とを含み、前記結合要素は、前記パーソナルケア装置のベース構造の結合要素の第 1 及び第 2 の協働面とそれぞれ協働するための第 1 及び第 2 の傾斜面を含み、

中心軸線の周りの第 1 の回転方向に、結合した結合要素を互いに対して回転させることによって、第 1 の傾斜面は、第 1 の協働面と協働し、それにより、前記中心軸線と平行に延びる軸線方向に前記結合要素を互いに離れる方向に駆動させ、

前記中心軸線の周りの第 1 の回転方向とは反対の第 2 の回転方向に、前記結合した結合要素を互いに対して回転させることによって、第 2 の傾斜面は、第 2 の協働面と協働し、それにより、前記軸線方向に前記結合要素を互いに離れる方向に駆動させ、

第 1 及び第 2 の傾斜面は、それぞれ、前記中心軸線に対して正接方向に延びる接線方向との鈍角を含み、

第 1 及び第 2 の傾斜面は、前記接線方向に対して反対方向に傾斜しており、

第 1 及び第 2 の傾斜面は、それぞれ、前記中心軸線に対して径方向に延びる半径方向との更なる鈍角を含む、

ヘッド構造。

【請求項 1 2】

請求項 1 乃至 10 のいずれか一項に記載のシェーピング装置のようなパーソナルケア装置で使用するためのベース構造であって、

該ベース構造は、結合要素を含んでおり、該結合要素は、前記パーソナルケア装置のヘッド構造の結合要素の第 1 及び第 2 の協働面とそれぞれ協働するための第 1 及び第 2 の傾斜面を含み、

中心軸線の周りの第 1 の回転方向に、結合した結合要素を互いに対して回転させることによって、第 1 の傾斜面は、第 1 の協働面と協働し、それにより、前記中心軸線と平行に延びる軸線方向に前記結合要素を互いに離れる方向に駆動させ、

前記中心軸線の周りの第 1 の回転方向とは反対の第 2 の回転方向に、前記結合した結合要素を互いに対して回転させることによって、第 2 の傾斜面は、第 2 の協働面と協働し、それにより、前記軸線方向に前記結合要素を互いに離れる方向に駆動させ、

第 1 及び第 2 の傾斜面は、それぞれ、前記中心軸線に対して正接方向に延びる接線方向との鈍角を含み、

第 1 及び第 2 の傾斜面は、前記接線方向に対して反対方向に傾斜しており、

第 1 及び第 2 の傾斜面は、それぞれ、前記中心軸線に対して径方向に延びる半径方向との更なる鈍角を含む、

ベース構造。

【請求項 1 3】

少なくとも第 1 の結合要素と第 2 の結合要素とを含む結合構造であって、これらの結合要素は、互いに取り外し可能に結合可能であり、

中心軸線の周りの第 1 の回転方向に、結合した結合要素を互いに対して回転させることによって、第 1 及び第 2 の結合要素の少なくとも一方の第 1 の傾斜面が、第 1 及び第 2 の結合要素の他方の第 1 の協働面と協働し、それにより、前記中心軸線と平行に延びる軸線方向に第 1 及び第 2 の結合要素を互いに離れる方向に駆動させ、

前記中心軸線の周りの第 1 の回転方向とは反対の第 2 の回転方向に、前記結合した結合要素を互いに対して回転させることによって、第 1 及び第 2 の結合要素の少なくとも一方の第 2 の傾斜面が、第 1 及び第 2 の結合要素の他方の第 2 の協働面と協働し、それにより、前記軸線方向に第 1 及び第 2 の結合要素を互いに離れる方向に駆動させ、

第 1 及び第 2 の傾斜面は、それぞれ、前記中心軸線に対して正接方向に延びる接線方向との鈍角を含み、

第 1 及び第 2 の傾斜面は、前記接線方向に対して反対方向に傾斜しており、

第 1 及び第 2 の傾斜面は、それぞれ、前記中心軸線に対して径方向に延びる半径方向との更なる鈍角を含む、

結合構造。